

澤田正春・澤頭修自 写真展開催事業

取組に至る背景・事業の目的

- 本実行委員会のメンバーである木曽路美術館は、木曽を訪れる方々に上質な芸術作品の鑑賞の場を提供し、木曽の芸術文化の一里塚でありたいという願いが込められ設立された経過がある。また一般にその功績を知られていない木曽出身の優れた芸術家や、木曽にゆかりのある芸術家の紹介を目指し、調査研究・情報収集を行っている。
- 木曽地域では芸術や文化に触れる機会、発信する機会がまだまだ少ない状況にあるため、木曽の文化振興を図るきっかけを作るとともに、木曽の魅力を発信することを本事業の目的にしている。
- 本事業は、昭和の時代から撮りためてきた澤田正春氏と澤頭修自氏の木曽にゆかりのある写真を紹介し、広めていきたいという地元の要望から計画した。

事業内容

- 60年代木曽路ブームの火付け役である澤田正春氏の写真と、木祖村在住の元教諭であり木祖村史編纂室長であった澤頭修自氏の写真を木曽郡内4か所、県外2か所で展示した。
- オープニングイベントとして10月14日に木曽町の御料館において澤頭氏による「あの頃の木曽町を振り返り」をテーマにトークショーを行った。
- また、10月22日には木曽路美術館においてプロの写真家である池田昌広氏によるワークショップ「写真を観る」を開催し、講評をメインに写真を観るということについて考えた。



【講演会の様子】

事業効果

- 写真展を木曽の紅葉シーズンに郡内および郡外で開催したことにより、より多くの人に向けてアピールすることができ、総来場者数2,500人を達成することができた。
- 地域に眠る文化資源を活用することができたとともに、地域の新たな魅力の発見につながった。
- 官民を問わない文化施設との連携により、相互協力のもと、事業を展開させることができた。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

- 地域住民に大変好評だった。今回は、郡内4町村で開催したので、今後は郡内全域に広げて活動していきたい。
- 広域的につながりのある当企画を今後も継続するため、エリア内の各地を巡る楽しみを加えることで、多くの方々の参画を得て観光資源として活用し、経済効果の創出を目指したい。
- 今後も木曽地域における貴重な文化芸術資源を調査活用し、後世へとつないでいくため、地域の人や郡外の人々により広く認知されるための展示等を行っていく。

【選定のポイント】

地域外の会場で開催したり、撮影者による講演会やプロカメラマンによるワークショップも交えたりするなど、住民が芸術文化に親しむ工夫をしている。地域の貴重な文化財として保全された写真が、今後も広く活用されることが期待できる点などを評価した。

団体名 木曽地域文化芸術資源活用実行委員会 (上松町) 連絡先 0264-24-0116 kisoji@basil.ocn.ne.jp	事業タイプ ソフト事業 事業費 1,837,570円 支援金額 1,470,000円
---	--